

埋蔵文化財通信

みやざき

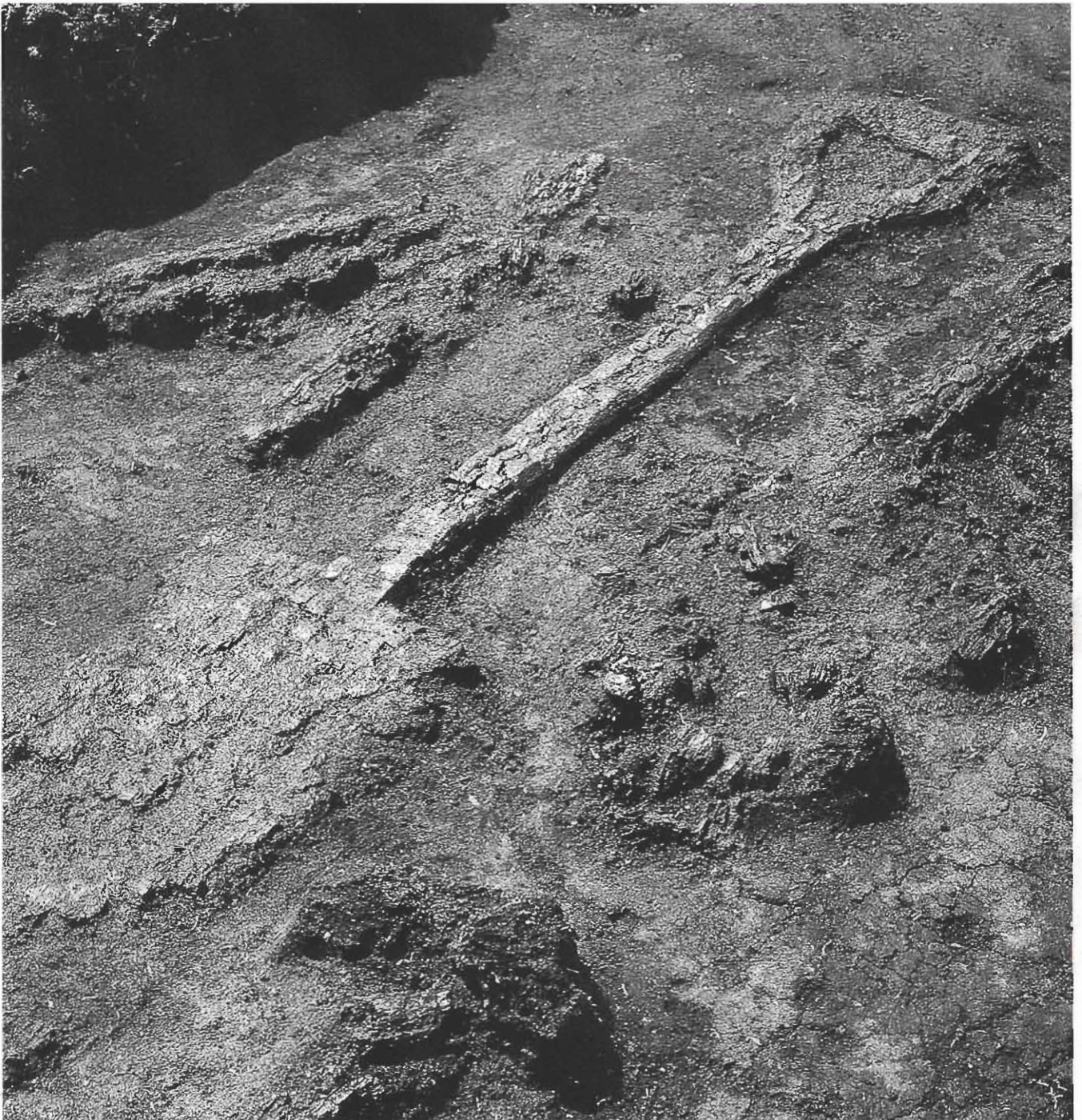
第6号

発行日 平成17年3月30日

発行 宮崎県埋蔵文化財センター

本館 〒880-0212 宮崎郡佐土原町大字下那珂4019番地

神宮分館 〒880-0053 宮崎市神宮2丁目4-4



ゆむた 湯牟田遺跡（川南町）出土 木製鋤^{すき}【全長98.0cm】

東九州自動車道建設に伴う発掘調査を行った湯牟田遺跡の住居跡から出土した木製の鋤です。炭化して真っ黒になっていますが、ほぼ完全な形で出土しました。

東九州自動車道(都農～西都間)建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査情報

●赤坂遺跡(川南町川南) 平成16年6月～平成17年3月調査

赤坂遺跡は、^{こつこうばる}国光原台地の端にあります。標高は約81m～86m。遺跡の北の端は小高い丘になっており、丘の北側は^{がけ}崖になっています。丘の上に立つと、尾鈴の山並や、^{せんじょうち}眼下の扇状地が一望できる、とても眺めのよい場所にあります。

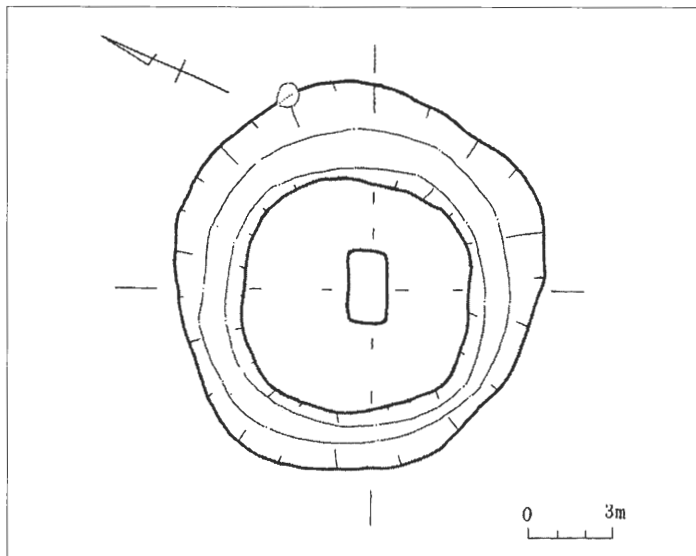
赤坂遺跡では、今から約1,800年前の弥生時代の人々が生活したあとを見ることができます。

「^{たてあなじゆうきょ}竪穴住居」とよばれる住まいの跡や、当時使われていた道具などが数多く見つかりました。弥生土器も多く出土しています。

なかでも、見晴らしのよい丘の上に「^{しゅうこうぼ}周溝墓」という大きな墓が出てきたことがこの遺跡の特徴です。

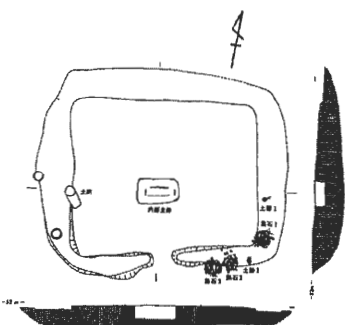
周溝墓は遺体を埋める穴のまわりに溝をめぐるした墓のことで、弥生時代に多く造られました。

県内での検出例は赤坂遺跡で7例目になります。周溝墓には^{ほうけい}方形周溝墓と円形周溝墓がありますが、赤坂遺跡の周溝墓は南北の軸に比べて東西の軸が少し長いや^{だえん}楕円形のタイプです。中心の^{まいそう}埋葬する場所(主体部)は長方形に穴が掘られています。当遺跡の周溝墓は直径が約13mと県内の他の周溝墓に比べるとやや大きいものです。また、この墓は丘の上に造られていますが、このような場所に造ることは非常にめずらしい例です。

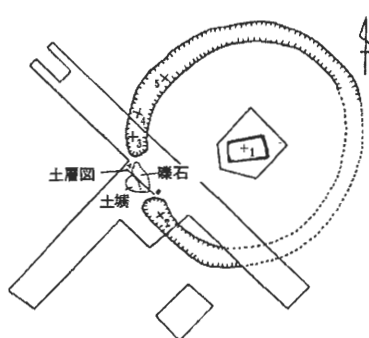


周溝墓 (SM1) 実測図

いろいろな周溝墓 (県内)



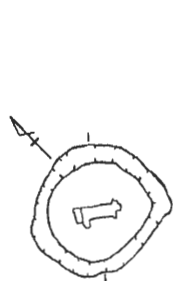
東平下2号 (川南町)



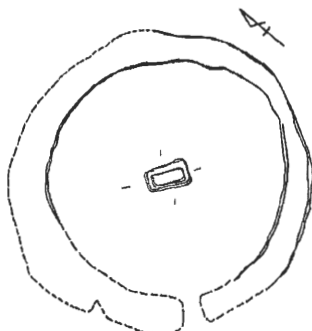
東平下1号 (川南町)



史跡生自古墳群周辺 (宮崎市)



七又木遺跡 (新富町)



川床遺跡 (新富町)



山田遺跡 (延岡市)



●^{ゆむた}湯牟田遺跡（川南町）平成16年8月～平成17年3月調査

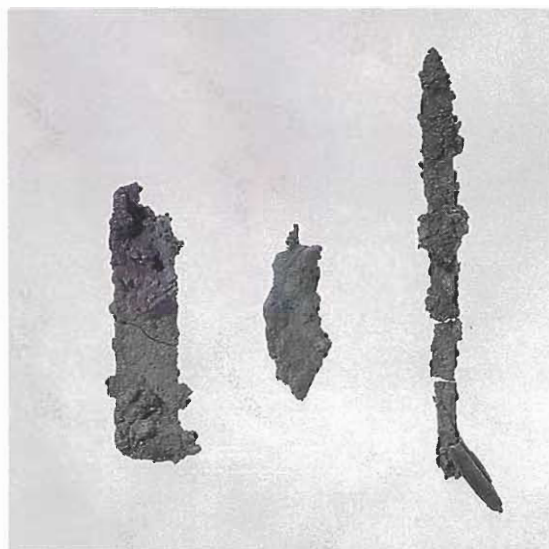
湯牟田遺跡は平田川と切原川に挟まれた国光原台地の南部に広がる遺跡です。標高は約68mで、北東の国光原よりは約10mほど標高が低く、南から北に緩やかに傾斜した谷地形となっています。

赤坂遺跡と同じように弥生時代後期後半の竪穴住居が24軒見つかりました。その内の何軒かは焼け落ちた形跡のある焼失住居でした。そしてこの焼失住居の中から表紙の木製鋤がほぼ完全な形で出土しました。

鋤は田畑を耕作する道具で、刃部を土に差し入れて土を起こします。弥生時代中期以降は刃部が金属製のものもありますが、ここで出土したものは木だけで作られていました。



木製鋤の出土した焼失住居全景
(白い線で囲んだ部分から木製鋤が出土しました)



出土鉄器



湯牟田遺跡遠景



湯牟田遺跡全景

道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査情報

●^{のかど}野門遺跡（延岡市松山町、延岡道路関連）平成16年9月～平成16年12月調査

遺跡は、五ヶ瀬川沿いの松山の集落から北西の高平山に向かい、谷筋から徒歩で数分登った標高約40mの緩やかに傾斜する幅広の稜線上に立地しています。周辺には、弥生時代の竪穴住居跡を検出した野田町^{はった}八田遺跡や、古川古墳、^{うえのぼう}上ノ坊古墳、^{かみたたら}上多々良箱式石棺群など多くの古墳時代の遺跡があります。

遺跡では、縄文時代晩期から古墳時代にわたる遺物を含んだ複数の地層が確認されました。

縄文時代晩期からは黒色磨研土器の口縁部や胴部の破片、大分県姫島で産出する黒曜石製石器が出土しました。

弥生時代の遺物は弥生土器の口縁部や胴部、底部の破片が出土しました。石製品としては打製・磨製の石鏃、石錘、磨石、石皿等が見つっています。

古墳時代のものとしては高坏の脚部や土師器、古代では須恵器の坏や土師器の坏が見つかりました。



野門遺跡遠景



竪穴住居を掘りあげた状態

● 筆無遺跡（都城市今町、都城東環状線関連）平成15年11月～平成17年2月調査

縄文時代晩期から近世後半にかけての遺構・遺物が見つかりました。A地点では中世の畠の畝の跡が見つかり、B地点では平安時代末期から中世初頭にかけての掘立柱建物跡や居住空間を区画する溝などが確認できました。C地点やD1地点では中世の周溝墓、土壇墓、掘立柱建物跡、溝状遺構、近世の掘立柱建物跡、溝状遺構や、土坑、地下室、井戸などが見つかりました。各時代の遺物は縄文時代後期～晩期にかけての土器や石器、弥生時代中期の甕や壺、古代から中世にかけての土師器・高台付碗・坏・皿、黒色土器・須恵器の甕、白磁・青磁（越州窯系、龍泉窯系、同安窯系）、緑釉陶器などです。



周溝墓を完全に掘りあげた状態



周溝墓内から出土した遺物（甕）

宮崎県埋蔵文化財センター

本館：〒880-0212 宮崎郡佐土原町大字下那珂4019番地 TEL 0985-36-1171, 1172 FAX 0985-72-0660
分館：〒880-0053 宮崎市神宮2丁目4-4 TEL 0985-21-1600 FAX 0985-26-2634
E-mail：http://www.pref.miyazaki.jp/kyouiku/bunka/maibun